

# 人権なら

2019年1月1日

第97号

NPO なら人権情報センター

● ひと・まち・生き生き

## 2019年 年頭あいさつ

### 活動の見える化へ決意

NPOなら人権情報センター

理事長 古川 友則

政府は昨年12月14日、沖縄の名護市辺野古沿岸部に土砂を強行投入し、後戻りができない深刻な局面を作り出しました。日本国土の0.6%しかない沖縄に在日米軍基地の実に70%以上が集中し



ています。沖縄県民の民意を踏みにじり、米国に追随、隷属する政府の蛮行を認めるわけにはいきません。

安倍政権は安保法制の強行制定の先にある憲法改悪、日米一体となった戦争ができる体制づくりに突進しています。人権を蔑ろにした政策も次々と打ち出しています。それに呼応して、ネトウヨと称される人たちによる社会的弱者などへのヘイト・バッシングも頻発しています。反対の意思を示さなければなりません。

私は昨年6月の第18期総会で新しく理事長に就任致しました。その就任あいさつで、引き続き、「部落第一主義」からの脱却と、現在直下の被差別部落(民)の現実を掴み取ること、人権情報センターの活動の見える化に取り組むこと、学習会を定例化すること、財政問題を整理すること、共闘団体の集会・学習会への積極的な参加を進めること、を訴えました。

ことは、そのことを具体化していきたいと考えています。皆さんからも運動・組織に関わる積極的なご意見をいただきたいと思っています。

2019年が私たちにとって佳き年となるよう、奮闘していくことをお誓いし、年頭のあいさつと致します。

## 中企協が確定申告相談会

奈良県中小企業者協会(山下力・会長)は12月10日から13日にかけて、県内5か所で2018年度確定申告説明会を開催した=写真。申告相談会は2月7日から22日まで、支局会



員を対象に下記の通り、開く。その他の会員には2月23日から3月9日にかけて実施する(次号に詳細)。

### <2018年度確定申告相談会>

日	時間	会場	対象支局
7 (木)	9:30~ 15:30	杏南町老人い こいの家	奈良・杏南
	13:30~ 15:30		奈良・古市
8 (金)	9:30~ 12:00	五條市人権総 合センター	五條
	14:30~ 17:00	西部文化セン ター	大和高田
12 (火)	9:30~ 15:30	河合町心の交 流センター	河合、上牧
13 (水)	9:30~ 12:00	若井人権交流 センター	平群、生駒
14 (木)	9:30~ 15:30	石上コミュニテ ィセンター	石上・市場、御 経野、嘉幡
15 (金)	同上	同上	同上
18 (月)	9:30~ 15:30	西田中町ふれ あいセンター	大和郡山
19 (火)	同上	同上	同上
20 (水)	9:30~ 15:30	三宅町・あざさ 苑2階	川西
21 (木)	9:30~ 15:30	三宅町・あざさ 苑2階	三宅、田原本、 吉野郡
22 (金)	9:30~ 15:30	三宅町・あざさ 苑2階	山添、宇陀、高 取、御所、直 轄、その他の地 区

## 奈良でピープルファースト大会

### 全国各地から881人のなかまが結集

ピープルファースト大会in奈良が12月1、2両日、県文化会館国際ホールで開催されました＝写真。全国から881人のなかまが集まりました。大会のテーマは「なかまと共に差別・虐待のない平和な社会をつくろう」「言いたいことを言いたい」とし、1年かけて準備してきました。



ピープルファーストは知的障害者の当事者組織で「わたしたちは障害者である前に一人の人間だ」という思いから始まりました。大会は年1回開催しています。今年は奈良県で20年ぶりの開催となりました。

### 優生保護法問題で東京・札幌裁判の原告が訴え

まず、県内の障害者施設を訪ね、一緒に大会をつくる現地実行委員を募りました。ひかり園、あすなろの家、アクティブセンターうだのココット、マーブル、ちいろば園、ひまわりの家からの計19人で現地実行委員会を結成。これまで何度も会議を重ねてきました。

ピープルファーストの活動をしていないところもあったため、差別・虐待事件についての勉強会や裁判への参加を通して理解を深めてきました。



大会では優生保護法の問題を中心として、東京裁判の原告である北三郎(仮名)さんと、札幌裁判の原告の小島喜久雄さんと連れ合いの麗子さんが「だまされて強制手術をさせられ、誰にも言えずにずっと苦し

んできた」ことを発言されました＝写真左上。このあと、津久井やまゆり園事件、三田市の監禁事件、塩田さんの後見人裁判、東北の震災後の生活などについての報告がありました。どれも内容が詰まっっていて、会場との意見交換も活発で、関心の高さが伺えました。

### 現地実行委をはじめ、多く人の支えで成功

実行委員からは「みんなの力があってからこの大会ができた。なかま、スタッフ、ボランティア、協力してくれたみんなのおかげだ」という声がありました。本当に多くの人たちの支えによって大会を成功させることができたと思います。感謝しています。これからもピープルファースト奈良の活動をがんばっていきますので、応援よろしく願いいたします。



なお、韓国(大邱)からも通訳の人も含めて16の方が参加されました。大会前日には、ひまわりの家やグループホームの見学、上但馬団地や解放地蔵の説明や三宅小学校や学童保育との交流(＝写真)もしました。

(ひまわりの家支援員・高橋百合子)

\*\*\*\*\*

### 三宅町が上但馬で職員研修

三宅町職員の研修会が11月14日にあり、「上但馬を歩く」をテーマにフィールドワークを行った。コースは中央公民館－飛鳥川魚梁(やな)舟但馬浜跡－五伝請堤(写真。共同墓地)・三郡神社－ナツメ請堤－つながり総合センター(小川幸三郎頌徳碑)。案内は吉田栄治郎・天理大学講師。この研修会は住民にも参加を呼びかけた。



参加者の大半は若い職員たちで、初めて歩く道や地域、初めて聞く話に興味を示していた。

## 中世被差別民衆史研究の新展開

### 同和問題関係史料センターが25周年シンポ

県立同和問題関係史料センターは12月4日、県人権センターで「中世被差別民衆史研究の新展開」をテーマにシンポジウムを開催した＝写真。シンポはセンター開所25周年を記念して行われた。



開会行事のあと、奥本武裕・センター所長が「部落史の見直し」の経緯、意義とともに、開催の趣旨を説明した。このあと、3人が報告した。

### 山村雅史さんが「中世の地域社会と被差別民」

報告1は「中世の地域社会と被差別民－法隆寺辺を主題材に」と題して山村雅史さん（県立郡山高等学校）が話した。山村さんは、「声聞師（しょうもじ）」「河原者（かわらもの）」「非人（ひにん）」など、中世大和の地域に存在した被差別民を紹介し、法隆寺辺の「被差別民」についての生活や活動、地域における役割とともに、周辺の「郷民（ごうみん）」からは「異（こと）なる」といった意識で感じられていたことが史料から見ることができると話した。

### 藤田和義さんが「大和の被差別民をめぐって」

報告2は「中世大和の被差別民をめぐって」と題して藤田和義さん（畿央大学）が話した。藤田さんは、中世社会では、いろいろな場面で呪術的な性格を見ることができるとし、職能としては吉凶の占いや地神を鎮める作法、千秋万歳や久世舞などの祝福芸能を紹介した。また、「聖」と「賤」の両義性として、「癩（らい）」者が文殊菩薩や阿闍仏（あしゅくぶつ）・観音菩薩の化身として聖性を帯びた存在であるとともに、宿業観の元に穢れたものとして忌避されてきたこと。また、奈良

町においての郷民と声聞師の間での「憑支（たのもし）」や、「風呂」をめぐる交流と排斥などの様子など、日常では隣り合いながら、“違い”という認識から排除の感情が働いていたことを説明した。

### 吉田栄治郎さんが「大和の被差別民を考える」

報告3は「大和の中世被差別民を考える」と題して吉田栄治郎さん（天理大学）が話した。吉田さんは、「同和問題関係史料センター」がめざした「部落史の見直し」とは、を軸に話をした。

(1)「近世政治起源説」の克服は、「史料に基づく部落史像の構築と提示」であることと、「起源研究の無意味さの提示」であること強調。地域社会史への部落史の嵌め込みを通して、「被差別民も差別する対象を持つということ」の確認や、「闘わない部落民」を否定しない同和教育の必要性を提起した。

(2) 部落唯一被差別像の否定としては、近世被差別民（穢多・夙・万歳・神子〈陰陽師〉・穩亡）の多様性や、中世社会における被差別民の具体像の提示が必要だとした。

(3) 部落の貧困・低位・劣悪論の克服としては、そうしたことが「被差別の属性」としてあるわけではないこと。「被差別民の豊かさ」など、在地史料から取り出した具体像を示した。



(4)「解放から融和へ」として、「大和同志会の研究」と「32テーゼの呪縛からの解放」を提起。「政治路線や思想」に縛られてきた部落史研究の呪縛から解放放つことが重要だと話した。

このあと、奥本さんの司会で3人が意見と補足の提起をした＝写真。25年に及ぶ「部落史の見直し」の研究と活動は、「同和教育」を射程に行われてきた。とはいえ、部落解放運動もまた「部落史の見直し」によって揺さぶり続けられてきた、といえよう。



# 運動史編纂へ目録を作成

1946年2月に「部落解放全国委員会」が設立(京都)され、1955年に「部落解放同盟」に改称された。奈良においては1946年3月、「部落解放奈良地方委員会」が発足。その後、1957年10月20日に「部落解放同盟奈良県連再建代表者会議」(第1回大会)が開催され、委員長に米田富、顧問に阪本清一郎を選出した。以降、奈良の戦後部落解放運動は大きく歩み始めた。共産党系の人たちとの対立を抱え、1969年の「同和対策事業特別措置法」の成立を経て、70年代の高揚した部落解放運動が展開された。



## 編纂作業に並行し勉強会も催すことに

奈良の部落解放運動史の編纂を通して、過去・現在と向き合い、「新たな景色」に出会いたいと思っている。そのためにも、この作業とともに、「部落差別をどう考えるのか」といった勉強会を催していきたい。第1回目として、昨年6月に石元清英・関西大学教授(兵庫

### 編集後記 ☆★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

年が明けた。今年は冷戦終結から30年。世界は今、融和の方向ではなく、分断、排外主義が強まり、対立激化に進んでいる。米中は世界の覇権をめぐる激しく争う。わが国でも強権政治がはびこる。公文書改ざんなどの不正はそのまま。民主主義、法治主義、立憲主義は蹴散らかされる。国民に主権がある、とは考えず、信号を無視した暴走車のように振る舞う首相。まるで軍事独裁政権だ。軍用機を爆買いして軍事費は増やすが、社会保障費は抑える。このままでは国の形が変わり、社会が壊され、さらに生きづらくなる。私たちは人々をつながりやを深め、共生に向けて進みたい。

部落解放研究所長)を招き、話を聴いた。

「改めて勉強したい」「率直に議論する場がほしい」という人たちが周囲に多くいる。この事業がそうした人たちとの出会いと交流の場であってほしいと願う。

一昨年秋から始めた編纂作業は、仕事の合間を見つけての作業だった。資料の持ち出しから始まり、それを10年区分に分類し、昨年の春からは、1年区分(写真)に再分類してきた。9月には一区切り。10月からは、追加資料の整理と差し込み、目録の作成(ラベルの記載、パソコンへの入力)を始めている。

今年はさらに時間を確保し、作業に取り掛かりたいと考えている。

\*\*\*\*\*

## 朗読劇「線量計が鳴る」

### 中村敦夫が元・原発技術者のモノログ演じる

中村敦夫ひとり語り「線量計が鳴る」—元・原発技師のモノログ<独白>の公演が、12月6日に奈良市内で、7日に大阪市内で、それぞれあった。どちらも会場は大盛況だった。

中村さんは福島原発事故を題材にした朗読劇を書き下ろし、全国を行脚し、演じることで、原発事故を告



発し続けている。

作品は原発で働いていた技術者を主人公にして、現場から観た原発事故の苦悩と怒りを描くもので、公演を観て、言葉に宿る力強さに圧倒させられた。

### ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター  
〒636-0223  
奈良県磯城郡田原本町鍵301-1  
TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833  
E-mail:info@nponara.or.jp  
http://www.nponara.or.jp/